



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月6日

上場会社名 株式会社ダイフク 上場取引所 東
 コード番号 6383 URL <https://www.daifuku.com/jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下代 博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務本部長 (氏名) 日比 徹也 (TEL) 06-6472-1261
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	113,968	18.5	9,025	40.5	9,877	50.8	7,394	41.4
2020年3月期第1四半期	96,160	△1.1	6,423	△24.5	6,551	△27.0	5,229	△53.4

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 5,370百万円(6.9%) 2020年3月期第1四半期 5,022百万円(△27.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	58.73	—
2020年3月期第1四半期	41.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	423,433	237,428	55.0
2020年3月期	410,887	237,356	56.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 232,772百万円 2020年3月期 232,961百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	30.00	—	45.00	75.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	30.00	—	45.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	212,000	1.6	16,300	△5.7	16,900	△4.1	11,600	△11.9	92.16
通期	460,000	3.7	41,000	1.2	41,800	2.0	29,000	3.3	230.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	126,610,077株	2020年3月期	126,610,077株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	692,027株	2020年3月期	703,806株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	125,915,408株	2020年3月期1Q	125,824,281株

(注) 期末自己株式数には、株式給付信託(BBT=Board Benefit Trust)およびダイフク従業員持株会専用信託が保有する自己株式を含んでおります。株式給付信託(BBT=Board Benefit Trust)が保有する自己株式数は、2021年3月期第1四半期末 156,100株、2020年3月期末 159,100株であります。また、ダイフク従業員持株会専用信託が保有する自己株式数は、2021年3月期第1四半期末 52,700株、2020年3月期末 61,900株であります。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

連結業績予想の数値は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項につきましては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、TDnetで8月6日に開示し、同日、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当四半期連結会計期間における世界の経済は、2020年初頭より影響が顕在化し始めた新型コロナウイルス感染症が各国に波及し、景気が急速に悪化しました。その影響は今もなお世界各国で継続しており、テクノロジーを巡る通商問題も加わって、先行き不透明な状況が続いています。

国内においても、緊急事態宣言が4月7日から1カ月以上にわたって発令され、経済活動に制限がかかっていたこともあり、先行き不透明な状況で推移しました。

上記のような経済・事業環境のもと、受注は新型コロナウイルス感染症の影響により、期ずれや先送り案件が生じました。売上は進行が遅れている案件があるものの、豊富な前期末受注残をベースに順調に推移しました。

この結果、受注高は1,049億4百万円（前年同期比4.4%増）、売上高は1,139億68百万円（同18.5%増）となりました。

利益面では、北米や中国での工事進行遅れ、部品の一部に調達コストの増加などがあったものの、国内の一般製造業・流通業向けシステムがけん引し、順調に推移しました。

この結果、営業利益は90億25百万円（同40.5%増）、経常利益は98億77百万円（同50.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は73億94百万円（同41.4%増）となりました。

当第1四半期連結会計期間の平均為替レートは、米ドルで109.12円（前年同期110.30円）、韓国ウォンで0.0904円（同0.0983円）、中国元で15.52円（同16.44円）となりました。近年は、韓国ウォンや中国元の影響が大きくなっており、前年同期比で受注高は約38億円減少しました。売上高は約17億円減少したものの、営業利益への影響は軽微でした。

〔新型コロナウイルス感染症の影響〕

当社グループ業績への新型コロナウイルス感染症の主な影響は、以下のとおりです。当社グループのうち、株式会社ダイフク、株式会社コンテックをはじめとする国内の会社は3月末決算、海外子会社はほとんどが12月末決算のため、それぞれ2020年4月から6月末、2020年1月から3月末までの期間の状況を記載しています。

当社グループでは、社長をトップとする対策本部を早期に立ち上げ、機動的に対策を講じました。当社グループが提供するシステムは、社会活動に不可欠なインフラを構成するEssential Businessと位置付けられているケースが多いことから、各地行政機関の指導やお客さまの方針に従い、

- ・適切な感染拡大防止策を講じ、社員とその家族、お客さま、取引先の安全確保を最優先にする
- ・営業・管理系社員を中心に在宅勤務と時差出勤を併用する

などの対策を取って事業活動を継続しました。移動や出社の制限、休業などによって、商談が進めにくくなり受注時期が遅れる、工事進行が遅れる等が共通して見られた影響です。

・日本

当社グループの主力生産拠点である滋賀事業所は、支障なく生産活動を続けることができました。調達が難しくなる可能性のある一部の輸入部品については、国産の代替品を手当てし、コストよりも、納期を守ることや、お客さまへ納入した設備の稼働を止めないことを優先しました。また、構築済みのITインフラを有効に活用し、東京・大阪を中心に在宅勤務を実施しました。

・アメリカ

自動車生産ライン向けシステムでは、生産は継続したものの、お客さまの工場の休業により工事・サービス案件の多くが休止状態になりました。一方、半導体工場や流通業向けシステムでは、お客さまの多くが操業を続け、工事・サービス活動も継続しました。

空港向けシステムは、航空会社の専用ターミナル増設等は延期された案件が多いものの、空港運営会社が長期的・計画的に進める案件は大きな影響は受けていません。旅客数の減少に伴い、空港設備のオペレーション&メンテナンスは規模が縮小しました。

・中国

当社子会社、お客さまともに出社・移動が大幅に制限され、武漢近郊では本格稼働を5月まで待つ必要がありました。このため、受注時期や売上進捗が遅れ気味に推移しました。

・韓国

工場を休止することなく操業を続けることができ、比較的小さな影響で推移しました。

・その他

台湾・タイでも工場を休止することなく操業を続けることができました。タイ以外の東南アジアやインドは、全般に事業活動が停滞気味となり、進捗が大幅に遅れています。欧州、オセアニアも全般に事業活動が停滞気味となりました。

〔アフター・コロナ社会に向けて〕

当社グループの主力事業であるマテリアルハンドリングシステムは、近年、グローバル規模でのヒト・モノの動きの増加、流通形態の変革やIoTなどの技術革新による産業構造の変化、人手不足による自動化投資など、幅広い産業界のニーズに支えられ力強く成長してきました。

新型コロナウイルス感染症により、産業界全体の先行きが見通し難い状況にありますが、eコマースのさらなる拡大、5G通信やデータセンター向け半導体の需要増加など新たなニーズも見込まれ、中長期的な成長を目指せる環境に変化はないと考えています。当社グループが提供するシステムは、人手不足の解消や、リードタイムの短縮に資するだけでなく、省人化によって「密」を防ぐこともできます。今後、人の手を介さないための自動化へのニーズはさらに加速すると考えられます。コロナ前とは違う新たな日常「ニューノーマル」社会の構築に貢献できる、新たな物流ソリューションを開発・提供してまいります。

〔セグメントごとの業績〕

セグメントごとの業績は次のとおりです。受注・売上は外部顧客への受注高・売上高を、セグメント利益は親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

報告セグメントに関する詳細は、後記（セグメント情報等）をご参照ください。

① 株式会社ダイフク

受注は、移動制限等により商談が進まず、特に半導体・液晶生産ライン向けシステムの東アジアへの輸出案件で影響が生じたほか、一般製造業・流通業向けシステム、自動車生産ライン向けシステムも伸び悩みました。

売上は、一般製造業・流通業向けシステムが豊富な受注残をベースに順調に推移したことが寄与し、増収となりました。

セグメント利益は、半導体・液晶生産ライン向けシステムで、2019年度後半にお客さまの業界の事業環境が厳しくなる中で受注した収益率の低い案件の売上があったものの、一般製造業・流通業向けシステムの売上増、収益率改善がけん引し、増益となりました。

この結果、受注高は338億74百万円（前年同期比35.3%減）、売上高は506億8百万円（同25.9%増）、セグメント利益は45億64百万円（同96.7%増）となりました。

② コンテックグループ

日本市場では、先行きの不透明感に伴う企業の設備投資先送りなどにより、受注に影響が出ていますが、前期に受注した物流関連向け産業用コンピュータの大型案件を計上したこともあり、売上は増加しました。

米国市場では、医療機器業界向けの産業用コンピュータの販売が底堅く推移したことに加え、空港セキュリティ関連向け案件も売上の増加に寄与しました。

利益面では、前期に計上した投資有価証券の売却益がなくなっていることから減益となりました。

この結果、受注高は41億51百万円（前年同期比21.4%減）、売上高は39億72百万円（同15.9%増）、セグメント利益は3億28百万円（同13.7%減）となりました。

③ Daifuku North America Holding Company (DNAHC) グループ

受注は、一般製造業・流通業向けシステムはeコマースがけん引して好調に推移し、自動車生産ライン向けシステム、半導体生産ライン向けシステムは堅調でした。空港向けシステムは前年並みを維持しました。

売上は、前期に大型案件を受注した自動車生産ライン向けシステムがけん引し、増収となりました。

利益面は、利益率が低い一部の大型案件の影響を受けました。

この結果、受注高は244億53百万円（前年同期比32.6%増）、売上高は339億82百万円（同54.9%増）、セグメント利益は12億48百万円（同7.2%減）となりました。

④ Clean Factomation, Inc. (CFI)

Clean Factomation, Inc. は、主に韓国の半導体メーカーにクリーンルーム内搬送システムを提供しています。

受注は、在宅勤務やウェブ会議の利用が活発化したことによるデータセンター用半導体需要増が加わり、順調に推移しました。売上・利益については、受注残をベースに堅調に推移しました。

この結果、受注高は123億88百万円（前年同期比62.3%増）、売上高は72億41百万円（同9.6%減）、セグメント利益は11億92百万円（同21.2%増）となりました。

⑤ その他

「その他」は、当社グループを構成する連結子会社67社のうち、上記②③④以外の国内外の子会社です。これら各社は、マテリアルハンドリングシステム・機器、洗車機の製造や販売等を行っています。主な子会社の状況は、次のとおりです。

国内子会社：

株式会社ダイフクプラスモアは、サービスステーション、カーディーラー向けの洗車機に加え、トラック・バス向けの大型洗車機の拡販を強化しており、販売台数は堅調に推移しています。

海外子会社：

中国、台湾、韓国、タイ、インドなどに主な生産拠点があり、グローバルな最適地生産・調達体制の一翼を担いつつ、販売・工事・サービスも行っています。

また、北米、アジア、欧州、中米、オセアニアに販売・工事・サービスを行う海外子会社を幅広く配置しています。

受注は、中国や韓国で大型案件が寄与したものの、売上・利益は、新型コロナウイルス感染症による社会活動の制限、厳しさを増した経済環境の影響を受けました。この結果、受注高は300億35百万円（前年同期比79.6%増）、売上高は171億17百万円（同23.5%減）、セグメント利益は4億3百万円（同2.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前連結会計年度末に比べ125億45百万円増加し、4,234億33百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が182億11百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ124億72百万円増加し、1,860億4百万円となりました。主な要因は、短期借入金が増加したものの、未払法人税等が24億22百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ72百万円増加し、2,374億28百万円となりました。主な要因は、利益剰余金等が増加したものの、為替換算調整勘定等が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、2020年5月12日に発表した2021年3月期の第2四半期連結累計期間および通期連結累計期間の業績予想数値に修正は加えていません。詳細は、サマリーをご参照ください。

第1四半期はほぼ予定通りに進捗し、増収増益となりました。第2四半期以降も、2020年3月期末受注残による売上、底堅いサービス売上にベースに堅調な進捗を見込んでいます。

一方、受注は上期の公表値2,400億円を2,000億円に修正します。

第1四半期は、2020年3月期からの継続案件を中心に比較的順調に進捗しました。第2四半期は新型コロナウイルス感染症による移動や出社の制限などが、大型案件の決定期ずれ、新規商談の遅延として現れる見込みです。これらの影響は下期にはおおむねキャッチアップできると見ており、受注の通期予想4,800億円に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	70,907	89,118
受取手形・完成工事未収入金等	202,712	191,196
商品及び製品	6,453	6,916
未成工事支出金等	11,169	12,436
原材料及び貯蔵品	15,720	18,244
その他	13,103	13,494
貸倒引当金	△383	△343
流動資産合計	319,683	331,064
固定資産		
有形固定資産	47,343	47,721
無形固定資産		
のれん	4,891	4,872
その他	5,242	5,769
無形固定資産合計	10,133	10,641
投資その他の資産		
その他	33,896	34,172
貸倒引当金	△169	△167
投資その他の資産合計	33,727	34,004
固定資産合計	91,204	92,368
資産合計	410,887	423,433
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	46,509	43,528
電子記録債務	22,587	24,073
短期借入金	11,772	21,532
未払法人税等	2,599	5,022
未成工事受入金等	33,091	33,383
工事損失引当金	263	301
その他	21,870	23,528
流動負債合計	138,695	151,370
固定負債		
長期借入金	21,645	21,241
退職給付に係る負債	8,082	8,062
その他の引当金	330	356
その他	4,777	4,973
固定負債合計	34,836	34,633
負債合計	173,531	186,004

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,865	31,865
資本剰余金	21,987	21,988
利益剰余金	179,292	181,168
自己株式	△1,430	△1,370
株主資本合計	231,714	233,651
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,716	3,300
繰延ヘッジ損益	△89	△266
為替換算調整勘定	1,038	△1,706
退職給付に係る調整累計額	△2,419	△2,206
その他の包括利益累計額合計	1,246	△879
非支配株主持分	4,394	4,656
純資産合計	237,356	237,428
負債純資産合計	410,887	423,433

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	96,160	113,968
売上原価	79,126	94,125
売上総利益	17,034	19,843
販売費及び一般管理費		
販売費	4,269	4,048
一般管理費	6,340	6,769
販売費及び一般管理費合計	10,610	10,818
営業利益	6,423	9,025
営業外収益		
受取利息	151	132
受取配当金	233	224
為替差益	—	473
受取賃貸料	54	55
その他	127	149
営業外収益合計	566	1,036
営業外費用		
支払利息	217	149
為替差損	171	—
その他	50	34
営業外費用合計	439	184
経常利益	6,551	9,877
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	618	—
特別利益合計	619	0
特別損失		
固定資産除売却損	4	21
特別損失合計	4	21
税金等調整前四半期純利益	7,165	9,856
法人税、住民税及び事業税	1,508	3,673
法人税等調整額	263	△1,327
法人税等合計	1,771	2,346
四半期純利益	5,393	7,510
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,229	7,394
非支配株主に帰属する四半期純利益	164	116

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△811	585
繰延ヘッジ損益	56	△177
為替換算調整勘定	301	△2,759
退職給付に係る調整額	75	217
持分法適用会社に対する持分相当額	5	△6
その他の包括利益合計	△371	△2,140
四半期包括利益	5,022	5,370
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,031	5,269
非支配株主に係る四半期包括利益	△8	101

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DNAHC	CFI	計		
売上高							
外部顧客への売上高	40,188	3,428	21,944	8,011	73,572	22,389	95,961
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,562	2,353	187	1,633	14,736	2,983	17,720
計	50,750	5,781	22,131	9,645	88,309	25,372	113,682
セグメント利益	2,320	380	1,346	983	5,030	414	5,445

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社です。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	88,309
「その他」の区分の売上高	25,372
セグメント間取引消去	△17,720
その他の連結上の調整額	198
四半期連結財務諸表の売上高	96,160

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,030
「その他」の区分の利益	414
関係会社からの配当金の消去	△117
その他の連結上の調整額	△98
四半期連結財務諸表の 親会社株主に帰属する四半期純利益	5,229

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DNAHC	CFI	計		
売上高							
外部顧客への売上高	50,608	3,972	33,982	7,241	95,805	17,117	112,922
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,635	2,693	65	567	10,961	3,127	14,089
計	58,244	6,665	34,048	7,808	106,767	20,244	127,011
セグメント利益	4,564	328	1,248	1,192	7,333	403	7,737

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社です。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	106,767
「その他」の区分の売上高	20,244
セグメント間取引消去	△14,089
その他の連結上の調整額	1,045
四半期連結財務諸表の売上高	113,968

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,333
「その他」の区分の利益	403
関係会社からの配当金の消去	△238
その他の連結上の調整額	△104
四半期連結財務諸表の 親会社株主に帰属する四半期純利益	7,394